

小児看護学学習前の学生が持つ対児感情と 親性準備性

Nursing Students' Emotions Childcare – Comparison and Readiness for Parenthood : Before Pediatric Nursing Study

宮良淳子・神徳規子

Junko Miyara and Noriko Jintoku

要 旨

本研究は、小児看護学を学習する前の学生が持つ対児感情と親性準備性の調査を行い、子どもに対する感情や養育に対する考え方を明らかにすることを目的とした。「対児感情尺度」と、「親性準備性尺度」を用いて調査し、結果より、以下のことが明らかになった。

- 1) 多くの学生の子どもの接触体験は表面的な関わりが主であり、特に乳児期～幼児前半期の子どもの日常生活の世話を体験している学生は少ない状況であった。
- 2) 対児感情に関しては、子どもとの接触体験のある学生ほど子どもの行動特性や関わりの中から感じた感情をイメージしており、接触体験の少ない学生ほど、抽象的なイメージを持っていた。
- 3) 子どもとの接触体験が多い学生は、親性の養育役割の準備性が高い傾向にあった。
- 4) 対児感情と親性準備性の養育役割との関連では、肯定的な接近感情を持っている学生は、親性準備性が高い傾向にあった。

キーワード(Key words) : 看護学生 (Nursing Students),

対児感情 (Emotions Childcare – Comparison), 親性準備性 (Readiness for Parenthood)

I. はじめに

結婚形態や家族の価値観が多様化し少産少子化が進む現代社会においては、子どもと触れ合う機会は減少しており、子どもと接し生活行動の世話をするといった体験のないまま親になる人たちが増えている。

子育ての基盤となる子どもに対する感情は、子どもとのやりとりの中で、子どもからの反応によって育まれていくものであり、子どもとの相互作用の中で親として発達していく¹⁾という。また乳幼児期から青年期までの体験を通して親性準備性は育成されていくため、

子どもと触れ合う体験が多い者は、触れ合う体験が少ない者に比べて親性準備性が高い²⁾という知見もみられる。一方、自分の出産まで子どもを身近に見たり抱いたりする機会がなかったケースは、親性準備性を育む機会がなく、親性の未成熟なまま親となり、子育てに関する悩みを抱え込むことが少なくない²⁾という。

看護職を目指す学生も日常生活において子どもと接する機会、とりわけ乳児や幼児前期の子どもとの関わりの乏しさが推測されるが、小児看護学ではすべての子どもが健やかに

成長・発達できるよう必要に応じて養育者を援助・支援していく役割が期待されている。そのため、今後の学習により、子どもを理解し、子どもの生活環境や養育について理解するとともに、子どもへの関心を高め、肯定的な子ども観を育てていく必要がある。

そこで本研究では、小児看護学を学習する前の学生が持つ乳児に対する感情や養育に対する考え方の調査を行い、対児感情と親性準備性を明らかにすることで、今後の小児看護学の教育において子どもの理解を深め、子どもをひとりの人間として尊重した関わりができる力を育成するための基礎的資料としたい。

II. 研究目的

小児看護学履修前の看護学生が持っている対児感情と親性準備性の実態を明らかにする。

III. 用語の定義

対児感情：花沢³⁾の対児感情尺度に示される子どもに対する感情であり、「あたたかい」「明るい」などの接近感情、「よわよわしい」「なれなれしい」などの回避感情を含む。

親性準備性：子どもが将来、家庭を築き経営していくために必要な親としての資質、及びそれが備わった状態。

IV. 研究方法

1. 研究対象

小児看護学概論を履修する前のA看護学部2年次生75名のうち、質問紙調査に協力し回答を得た学生とした。

2. 調査期間

2011年10月3日から10月9日までであった。

3. 調査方法

小児看護学概論の初回講義を受講する前週

に無記名の質問紙調査を実施した。内容は属性、子どもとの接触体験の程度、対児感情、親性準備性についてであった。

対児感情は信頼性・妥当性の検証された既存の「対児感情尺度」(子どもに対する接近感情14項目と回避感情14項目)³⁾を用い、「そんなことはない」～「非常にそのとおり」までに0点～3点を配した4件法で回答を得た。親性準備性については、既存の「親性準備性尺度」のうち養育役割因子9項目⁴⁾を用い、「まったく当てはまらない」～「非常に当てはまる」までの回答に1点～5点を配した5件法で回答を得た。なお青年期男子にも使用可能な尺度であり、信頼性については検証されている。

また子どもとの接触体験については、乳幼児から学童の日常生活の世話を中心とした9項目とし、「したことがない」～「かなりした」までの回答に1点～5点を配した5件法で回答を得た。

4. 分析方法

統計解析はIBN SPSS Statistics19を用い、属性については記述統計を行った後、保育体験実習の体験の有無と小児看護学への興味についてカイ二乗検定を行った。また対児感情と子どもとの接触体験との関連、親性準備性養育役割因子と子どもとの接触体験との関連及び、対児感情と親性準備性養育役割因子との関連については記述統計を行った後スピアマンの相関係数を求めた。なお統計的有意水準は5%未満とした。

5. 倫理的配慮

本研究は中京学院大学研究倫理審査会に承認を得て実施した。具体的には、研究協力者に対して、質問紙は無記名とし個人が特定されないようデータは記号化して処理を行うこ

と、途中で参加意思がなくなった場合は研究協力を中断することができること、研究終了後に質問紙はシュレッダーで廃棄し、パソコン内のデータも破棄すること、成績には関係しないこと等を口頭と文書で説明した。同意の確認は質問紙の提出をもって行い、同意が得られた学生を対象に実施した。

V. 結果

回収数は50部 (66.7%)、有効回答率は94.0%であった。対象者の属性は男性6.4%、女性93.6%であった。同胞の兄弟がいない学生は8.5%であった。中学校や高等学校で保育体験実習を体験したことがある学生は57.4%であった。これから学習の始まる小児看護学に興味があると答えた学生は74.4%であり、子どもと関わることについて自信があると答えた学生は27.7%、不安と答えた学生は17.0%であった (表1)。

また保育体験実習の体験の有無が小児看護学への興味に関連するかを比較したところ有意差は認められなかった ($p < .05$)。

また子どもと関わることについての自信の有無が、小児看護学への興味に関連するかを比較したところ有意差は認められなかった ($p > .05$)

表1. 対象者の属性 n=47

	人	%
性別		
男性	3	6.4
女性	44	93.6
兄弟の数		
一人っ子	4	8.5
2人	28	58.6
3人	11	23.4
4人	4	8.5

保育体験実習

体験なし	20	42.6
体験あり	27	57.4

小児看護学について

興味がある	35	74.4
どちらともいえない	10	21.3
あまり興味がない	2	4.3

子どもと関わることについて

自信がある	13	27.7
どちらともいえない	26	55.3
不安である	8	17.0

1. 子どもとの接触体験

子どもとの接触体験をみると、「幼稚園児や小学生の遊び相手」の平均点は 4.23 ± 0.73 であり、90%以上の学生が体験していた。「3歳ぐらまでの幼児の遊び相手」の平均点は 4.0 ± 0.81 であり、79%の学生が体験していた。一方、子どもの日常生活の世話を体験している学生は遊び相手を体験している学生に比べると少なく、「3歳ぐらまでの幼児を半日以上一人で世話する」体験の平均点は 2.6 ± 1.36 であり、「3歳ぐらまでの幼児をお風呂に入れる」体験の平均点は 2.34 ± 1.39 、「3歳ぐらまでの幼児のトイレの世話をする」体験の平均点は 2.5 ± 1.35 であった。また「赤ちゃんを抱く」体験の平均点は 4.04 ± 0.78 であり、83%の学生が体験しているものの、「赤ちゃんを半日以上一人で世話をする」体験の平均点は 2.23 ± 1.22 であり、「赤ちゃんをお風呂に入れる」体験の平均点は 2.0 ± 1.16 、「赤ちゃんのおむつ交換」の体験の平均点は 2.4 ± 1.42 と、乳児の日常生活の世話の体験は3歳ぐらまでの幼児の日常生活の世話の体験に比べるとさらに少ない状況であった (表2)。

表2. 子どもとの接触体験

	n=47	
	人	%
幼稚園や小学生の遊び相手		
かなりしたことがある	16	34.0
どちらかというところがある	28	59.6
どちらかというところがない	2	4.3
したところがない	1	2.1
3歳ぐらいまでの幼児の遊び相手		
かなりしたところがある	12	25.5
どちらかというところがある	25	53.2
どちらかというところがない	9	19.1
したところがない	1	2.1
3歳ぐらいまでの幼児を半日以上一人で世話をする		
かなりしたところがある	6	12.8
どちらかというところがある	7	14.9
どちらかというところがない	8	17.0
したところがない	26	55.3
3歳ぐらいまでの幼児をお風呂に入れる		
かなりしたところがある	5	10.6
どちらかというところがある	6	12.8
どちらかというところがない	7	14.9
したところがない	29	61.7
3歳ぐらいまでの幼児のトイレの世話をする		
かなりしたところがある	2	4.3
どちらかというところがある	13	27.7
どちらかというところがない	7	14.9
したところがない	25	53.2
赤ちゃんを抱く		
かなりしたところがある	12	25.5
どちらかというところがある	27	57.5
どちらかというところがない	7	14.9
したところがない	1	2.1
赤ちゃんを半日以上一人で世話をする		
かなりしたところがある	3	6.4
どちらかというところがある	4	8.5
どちらかというところがない	11	23.4
したところがない	29	61.7
赤ちゃんをお風呂に入れる		
かなりしたところがある	2	4.3
どちらかというところがある	3	6.4
どちらかというところがない	10	21.3
したところがない	32	68.0
赤ちゃんのおむつ交換		
かなりしたところがある	5	10.6
どちらかというところがある	8	17.0
どちらかというところがない	6	12.8
したところがない	28	59.6

2. 対児感情

学生全体の子どもに対する肯定的な接近感情の平均点は1.95と高く、否定的な回避感情の平均点は.64と低かった。肯定的な接近感情のうち「ほほえましい」「あたたかい」は点数が高く、否定的な回避感情では「よわよわしい」の点数が高かった(表3)。

表3. 対児感情の得点

	n=47	
	平均	±SD
あたたかい	2.64	0.53
うれしい	2.57	0.65
すがすがしい	1.45	1.00
いじらしい	.36	0.67
しろい	1.89	0.96
ほほえましい	2.74	0.64
ういういしい	2.32	0.93
あかるい	2.53	0.62
あまい	1.33	1.19
たのしい	2.45	0.75
みずみずしい	1.55	1.12
やさしい	1.83	0.96
うつくしい	1.47	1.02
すばらしい	2.13	0.99
接近感情平均	1.95	
よわよわしい	2.00	0.93
はずかしい	.43	0.83
くるしい	.13	0.34
やかましい	.91	0.86
あつかましい	.17	0.43
むずかしい	1.49	0.93
てれくさい	.87	0.88
なれなれしい	.40	0.83
めんどうくさい	.47	0.58
こわい	.72	0.83
わずらわしい	.28	0.62
うとうしい	.17	0.43
じれったい	.47	0.69
うらめしい	.49	0.80
回避感情平均	.64	

対児感情と子どもとの接触体験との関連をみた結果、「幼稚園や小学生の遊び相手をしたことがある」と「すばらしい」($r = .30$, $p < .05$), 「じれったい」($r = .31$, $p < .05$) の間に弱い正の相関がみられた。また「3歳ぐらいまでの幼児をお風呂に入れたことがある」と「しろい」($r = -.30$, $p < .05$) の間に弱い負の相関が、「わずらわしい」($r = .32$, $p < .05$) との間に弱い正の相関がみられた。また「3歳ぐらいまでの幼児のトイレの世話をしたことがある」と「わずらわしい」($r = .34$, $p < .05$) との間に弱い正の相関がみられ、「赤ちゃんを抱いたことがある」と「あかるい」($r = .37$, $p < .05$) との間に弱い正の相関がみられ、「赤ちゃんを半日以上一人で世話をしたことがある」と「やさしい」($r = -.30$, $p < .05$) の間に弱い負の相関がみられた(表4)。

3. 親性準備性(養育役割)

親性準備性の養育役割因子のうち、「子どもを見ていると優しい気持ちになる」の平均が4.53と最も高く、次いで「将来、子どもを育ててみたい」の平均は4.49であった。

親性準備性と子どもとの接触体験との関連

をみると、「赤ちゃんを抱く」体験と相関が見られた養育役割因子の項目は、「子どもを見ていると優しい気持ちになる」($r = .33$, $p < .05$), 「赤ちゃんを見ると、あやしたり笑いかけたりする」($r = .45$, $p < .05$) という2項目に弱い相関がみられ、「子どもはめんどくさい存在だ」($r = -.30$, $p < .05$) という項目に弱い負の相関がみられた。

また「3歳ぐらいまでの幼児を半日以上一人で世話をする」体験と相関が見られた養育役割因子の項目は、「赤ちゃんを見ると、あやしたり笑いかけたりする」($r = .29$, $p < .05$) であり、弱い正の相関がみられた。

「3歳ぐらいまでの幼児をお風呂に入れる」体験は、「赤ちゃんを見ると、あやしたり笑いかけたりする」($r = .29$, $p < .05$) という項目との間に弱い正の相関がみられ、「将来、自分が育児をするなんて考えたこともない」($r = -.30$, $p < .05$) という項目では弱い負の相関がみられた。

「3歳ぐらいまでの幼児のトイレの世話をする」体験においても、「赤ちゃんを見ると、あやしたり笑いかけたりする」($r = .33$, $p < .05$) という養育役割因子の項目との間に

表4. 対児感情と子どもとの接触体験との相関

$n = 47$

対児感情	接 触 体 験				
	幼稚園や小学生の遊び相手	3歳ぐらいまでの幼児をお風呂に入れる	3歳ぐらいまでの幼児のトイレの世話	赤ちゃんを抱く	赤ちゃんを半日以上一人で世話
しろい	-.06	-.30*	-.28	-.20	-.19
あかるい	.20	-.04	-.11	.37*	.09
やさしい	.18	-.06	-.17	-.17	-.30*
すばらしい	.30*	.21	.10	-.02	-.20
わずらわしい	.03	.32*	.34*	-.05	.03
じれったい	.31*	.24	.05	-.10	-.05

*: $p < .05$

弱い正の相関がみられた。

「3歳ぐらまでの幼児の遊び相手」の体験は、「将来、自分が育児をするなんて考えたこともない」($r = -.43, p < .05$)という項目との間にやや弱い負の相関がみられた。

また、「幼稚園児や小学生の遊び相手」の体験と相関が見られた養育役割因子は、「子どもが好きだ」($r = .30, p < .05$)、「赤ちゃんを見ると、あやしたり笑いかけたりする」($r = .35, P < .05$)という2項目に弱い正の相関がみられ、「将来、自分が育児をするなんて考えたこともない」($r = -.33, p < .05$)という項目に弱い負の相関がみられた(表5)。

対児感情と親性準備性との関連をみると、肯定的な接近感情14項目と親性準備性の養育役割因子9項目では、41項目において弱い正の相関がみられ、否定的な回避感情14項目と親性準備性の養育役割9項目では、16項目において弱い負の相関がみられた(表6)。

VI. 考察

子どもとの接触体験には、日常生活だけではなく、中学校や高等学校での保育体験実習での体験が含まれていると考えられる。「赤ちゃんを抱く」行為の平均点は高く、83.0%の学生が体験しているものの、乳児期～幼児前半期の子どもに対する日常生活の世話の体験をしているかについては平均点は低く、体験している学生は少ない状況であった。多くの学生の子どもの接触体験は、「抱く」「遊び相手になる」といった表面的な関わりの体験となっていることが明らかとなった。

子どもとの接触体験の少ない学生は、学内での技術演習時にダミードールを使用しても実際の子どもの反応をイメージ化しにくいのではないかと考えられる。小児看護学の学習は、学生の乳幼児に対するイメージを具体化し、対象者の理解を深めるのに重要な効果を与える⁶⁾ことができ、とくに視聴覚教材は子どもを理解することに有用である⁷⁾⁸⁾ことから、

表5. 子どもとの接触体験と親性準備性との相関

$n = 47$

	赤ちゃん		3歳ぐらまでの幼児		幼稚園児や小学生	
	抱く	半日以上一人で世話	お風呂に入れる	トイレの世話	遊び相手	遊び相手
子どもが好きだ	.22	.11	.05	.04	.23	.30*
子どもを見ていると優しい気持ちになる	.33*	.07	.15	.14	.27	.21
赤ちゃんを見ると、あやしたり笑いかけたりする	.45*	.29*	.29*	.33*	.18	.35*
子どもはめんどくさい存在だ	-.30*	-.07	.07	.00	-.09	-.23
子どもの成長の仕方や子育てについて学びたい	0.10	-.11	-.01	-.08	-.02	.09
将来、自分が育児をするなんて考えたこともない	-.21	-.06	-.30*	-.15	-.43*	-.33*

* $p < .05$

表6. 対児感情と親性準備性との相関

n = 47

	接近感情										すばらしい				
	あなた かい	うれし い	すが がしい	いじ らしい	しろ い	ほほ ましい	うい いしい	あか るい	あま い	たの しい		みず みず	やさ しい	うつ く	
子どもが好きだ	.44 *	.45 *	.32 *	-.13	.02	.27	.06	.32 *	.04	.52 **	-.01	.39 **	.16	.23	
子どもと一緒に遊ぶのは楽しい	.38 *	.41 *	.22	-.07	.13	.24	.09	.22	.07	.58 **	.04	.46 **	.22	.37 *	
将来、子どもを育ててみたい	.33 *	.49 *	.24	-.05	.04	.28	.21	.19	.13	.41 **	.15	.47 **	.17	.33 *	
子どもを見ていると優しい気持ちになる	.48 *	.53 *	.27	-.01	.07	.38 **	.13	.24	.12	.61 **	.01	.42 **	.2	.36 *	
赤ちゃんを見ると、あやしたり笑いかけたりする	.25	.34 *	.11	.02	.11	.3	.14	.14	.13	.28	.06	.21	.07	.21	
子どもはめんどくさい存在だ	.24	.34 *	.21	-.15	-.11	.45 **	.09	.21	.11	.38 **	-.09	.08	.03	.01	
子どもの成長の仕方や子育てについて学びたい	.4 *	.51 *	-.01	-.07	.29 *	.29 *	.08	.21	.36 *	.46 **	.02	.35 *	.24	.33 *	
将来、自分が育児をするなんて考えたこともない	.18	.26	.13	-.08	-.26	.14	.08	.14	.09	.18	.32 *	.27	-.03	.13	
育児は楽しいと思う	.25	.42 *	.14	-.23	.07	.34 *	.12	.15	.18	.58 **	.07	.31 *	.29 *	.3 *	
	よわ わしい	はず かしい	か くる	し しい	やか ましい	あ つか ましい	む ずか しい	て れく さい	な れな らしい	め んど くさい	こ わい	わ ずら しい	う つと う	じ れっ たい	う らめ しい
子どもが好きだ	-.14	-.02	.02	-.31 *	-.09	-.06	.16	-.13	-.28	-.09	-.12	-.41 **	-.29 *	.09	
子どもと一緒に遊ぶのは楽しい	-.08	.04	.04	-.21	-.07	-.04	.22	-.09	-.28	-.12	-.06	-.39 **	-.2	.06	
将来、子どもを育ててみたい	-.02	-.03	.06	-.29 *	-.18	.15	.23	-.23	-.29 *	-.17	-.1	-.52 **	-.28	-.07	
子どもを見ていると優しい気持ちになる	-.01	.1	-.04	-.21	-.16	.11	.18	-.2	-.31	-.11	-.07	-.48 **	-.22	.06	
赤ちゃんを見ると、あやしたり笑いかけたりする	.17	-.01	.13	-.05	-.23	.09	.21	-.19	-.11	-.02	-.07	-.37 **	-.23	-.1	
子どもはめんどくさい存在だ	.01	.07	.09	-.28	-.17	-.26	.02	-.13	-.34 *	-.22	-.38 **	-.38 **	-.2	-.02	
子どもの成長の仕方や子育てについて学びたい	.16	.2	.2	-.24	.11	.26	.43	.12	-.14	-.06	.04	-.32 *	-.21	.14	
将来、自分が育児をするなんて考えたこともない	.18	.11	-.08	-.23	-.16	.05	.12	-.09	-.28	-.09	-.05	-.21	-.07	-.08	
育児は楽しいと思う	.02	.14	.15	-.31 *	-.03	-.08	.09	.08	-.29 *	-.23	-.2	-.3 *	-.23	-.01	

*: p < .05 * * p < .01

効果的に視聴覚教材を使用する等をし、学生が子どもの特性や子どもの反応をイメージすることを援け、多面的に子どもの特性を理解できるよう働きかけていく必要があると考える。

対児感情に関しては、学生は子どもとの浅い関わりや外観から得られるイメージを持っていた⁹⁾との報告があるが、子どもとの接触体験のある学生ほど「あかるい」「すばらしい」と感じている反面、「じれったい」「わずらわしい」とも感じており、子どもの行動特性や関わりの中から感じた感情をイメージしていることが推察される。また接触体験の少ない学生ほど、外観から得られる抽象的なイメージを対児感情として持っていることが推察された。また、親性準備性は自身の乳幼児期から青年期までの体験を通して育成されていく²⁾と考えられており、今回の調査においても、子どもとの接触体験は親性準備性尺度の養育役割因子のいくつかの項目と相関がみられた。このことより子どもとの接触体験が多い学生は、子どもとの接触が少ない学生に比べて、養育役割の準備性が高い傾向にあると推察された。

また対児感情として子どもへの肯定的な接近感情を持っているほど、親性準備性の中の「養育役割」が備わっていることが推察された。先行研究において子どもとの接触経験があるほど、対児感情は肯定的な接近感情が高く、否定的な回避感情は低い⁵⁾と報告されていることから、子どもとの接触体験が多い学生は養育役割の準備性が高い傾向にあり、子どもへの肯定的な接近感情を表出しやすく、親になるイメージが明確である傾向にあると思われる。一方で子どもとの接触体験の少ない学生は養育役割の準備性が低い傾向にあり、子ど

もへの関心も低くなりがちであると思われる。

子どもとの接触体験が子どもへの肯定的な接近感情を育み、養育役割や親性の準備性を育むことにつながると考えられるが、現代社会においては日常的に子どもと触れ合う機会が乏しいことから、日常生活の場面においても意図的に子どもを観察するよう促すとともに、積極的に関わりを持つよう促し、臨地実習以外にも子どもと関わることのできるような機会を学生自らが設定することが必要である。それとともに、子どもの特性や子どもとの関わり方をイメージ化できるような教授方法の工夫や、子どもへの関心を高めるとともに肯定的な子ども観を育てていくための方略が重要であると考えられる。

本研究の限界

本研究の目的は、小児看護学履修前の看護学生が持っている対児感情と親性準備性の実態を明らかにすることであるが、本研究で得られた結果を一般化するにはいくつかの限界がある。

1. 調査対象施設・対象ともに無作為抽出でなく、対象者数が少ないことに加え、男女の比率の偏りというサンプリング上の問題を有している。
2. 対児感情や親性準備性に関連する要因については、本研究で挙げたほかにも様々な要因が関連することが予測されることより、さらに調査内容を精選し調査を進める必要がある。
3. 本研究に用いた「対児感情尺度」「親性準備性尺度」は既存のものであるが、縦断的研究による経時的変化や学習進度などとの関連も検討していくことで尺度の有用性が確認できると考える。

Ⅶ. 結論

本研究において、以下のことが明らかになった。

- 1) 多くの学生の子どもとの接触体験は「抱く」「遊び相手になる」といった表面的な関わりであり、乳児期～幼児前半期の子どもの日常生活の世話を体験している学生は少ない状況であった。
- 2) 対児感情に関しては、子どもとの接触体験のある学生ほど子どもの行動特性や関わりの中から感じた感情をイメージしており、接触体験の少ない学生ほど、抽象的なイメージを持っていた。
- 3) 子どもとの接触体験が多い学生は親性準備性「養育役割」が高い傾向にあった。
- 4) 対児感情と親性準備性「養育役割」との関連では、肯定的な接近感情を持っている学生は、「養育役割」の準備性が高い傾向にあった。

謝辞

本研究の趣旨に賛同頂き、調査にご協力くださいましたA大学看護学部2年次生の皆様に感謝いたします。

本研究は、平成22年度中京学院大学看護学部共同研究費の助成を受けて行った研究の一部である。

引用文献

- 1) 大野祥子, 柏木恵子編: 父親であること—子どもの養育者としての役割—, 結婚・家族の心理学, 150, ミネルヴァ書房, 東京, 1999.
- 2) 牧野カツコ: 高校生の「親となることへの準備状態」と保育教育, 日本家庭科教育

学会誌, 32, 51-59, 1989.

- 3) 対児感情尺度(改訂版), 心理測定尺度集Ⅲ, 112-115, サイエンス社, 2001.
- 4) 岡本祐子, 古賀真紀子: 青年の「親性準備性」概念の再検討とその発達に関連する要因の分析, 広島大学心理学研究, 4, 159-172, 2004.
- 5) 市川正人, 細野恵子: 看護系大学生のもつ乳幼児に対するイメージの変化(第1報) 小児看護学領域学習前後の比較による学習効果の検討, 名寄市立大学紀要, 5, 21-26, 2011.
- 6) 江崎絹枝, 永谷智恵, 嵐田美穂子: 児の入院で影響を受ける家族理解に向けた視聴覚教材の開発—視聴覚教材の評価と視聴後の学生の学び—, 勤医協札幌看護専門学校紀要, 3, 59-63, 2011.
- 7) 鈴木智子, 檜地千恵美: 養護教諭を目指す学生が抱く子どもに対するイメージの変化—乳幼児の生活記録DVD視聴から—, 第40回日本看護学会論文集—小児看護—, 40, 183-185, 2010.
- 8) 野村幸子, 河上智香, 長谷典子: 子どもとの接触体験からみた看護学生の子どもイメージ, 人間と科学—県立広島大学保健福祉学部誌—, 7(1), 169-180, 2007.
- 9) 花沢成一: 母性心理学, 70, 医学書院, 東京, 1992.

I 対児感情について

あなたは、赤ちゃんについてどのようなイメージをもっているでしょうか。
このアンケートは、乳児に対する感情の一般的様相を知るために行うものです。
下にある説明を読んで、ありのままにお答えください。

あなたは‘赤ちゃん‘を頭に思い浮かべた時に、どのような感じがしますか。
下の言葉でみた時に、どの段階にあてはまるでしょうか。
あなたの気持ちに合うところに○をつけてください。
- あまり深く考えないで、直感的に判断してください -

		その非 常にお り	そのと おり	その少 しにお り	そんなこ とは
1	あたたかい	3	2	1	0
2	よわよわしい	3	2	1	0
3	うれしい	3	2	1	0
4	はずかしい	3	2	1	0
5	すがすがしい	3	2	1	0
6	くるしい	3	2	1	0
7	いじらしい	3	2	1	0
8	やかましい	3	2	1	0
9	しろい	3	2	1	0
10	あつかましい	3	2	1	0
11	ほほえましい	3	2	1	0
12	むずかしい	3	2	1	0
13	ういういしい	3	2	1	0
14	てれくさい	3	2	1	0
15	あかるい	3	2	1	0
16	なれなれしい	3	2	1	0
17	あまい	3	2	1	0
18	めんどくさい	3	2	1	0
19	たのしい	3	2	1	0
20	こわい	3	2	1	0
21	みずみずしい	3	2	1	0
22	わずらわしい	3	2	1	0
23	やさしい	3	2	1	0
24	うっとりしい	3	2	1	0
25	うつくしい	3	2	1	0
26	じれったい	3	2	1	0
27	すばらしい	3	2	1	0
28	うらめしい	3	2	1	0

Ⅱ 親準備性について

	現在の、あなたの「子どもに対する親としての役割を遂行するための資質」についてお聞きします。 あまり深く考えないで、直感的にこたえて下さい。	あてはまる 非常に	あてはまる	どちらとも いえません	あてはまら ない	あてはまら ない まったく
1	家族と一緒に食事をしたり、話し合ったりするのは楽しい	5	4	3	2	1
2	家族と一緒にいると、楽な気持ちになる	5	4	3	2	1
3	家族団らんに親しみを感じる	5	4	3	2	1
4	家族は私にあまり関心がないようだ	5	4	3	2	1
5	家族の中で言いたいことが言える	5	4	3	2	1
6	家族はお互いに精神的支えである	5	4	3	2	1
7	家族はお互いに信頼しているものだ	5	4	3	2	1
8	将来、自分が育ったような家庭にしたい	5	4	3	2	1
9	家族が心情を訴えてもまともにとりあわない	5	4	3	2	1
10	嬉しいことがあると家族に報告する	5	4	3	2	1
11	家族と一緒に過ごす時間を大切にしている	5	4	3	2	1
12	家族に心を開いて内面的な話をする	5	4	3	2	1
13	家族は、必要な時にいてくれる	5	4	3	2	1
14	私の家族よりも他の家族のほうがもっと幸せだと思う	5	4	3	2	1
15	家族は、いざというとき、頼りになる	5	4	3	2	1
16	緊張したり、どぎまぎしないで、自分の考えや考え方について家族と話し合うことができる	5	4	3	2	1
17	家族は、個々で抱えている問題についてお互い話さない	5	4	3	2	1
18	家族はお互いの話を聞いてやるのが大切だ	5	4	3	2	1
19	家族の前では素直にふるまわない	5	4	3	2	1
20	家族は一体感をもつのが大切だ	5	4	3	2	1
21	家族はお互いに理解しあうべきものだ	5	4	3	2	1
22	家族はお互いに思いやるべきだ	5	4	3	2	1
23	部屋・トイレ・お風呂など、家を清潔に保つことができる	5	4	3	2	1
24	ふとんを干すなどして清潔に保つことができる	5	4	3	2	1
25	きちんとゴミを出すことができる	5	4	3	2	1
26	衣服の整理・整頓ができる	5	4	3	2	1
27	将来、きちんと家事をこなす自信がない	5	4	3	2	1
28	衣類を清潔に保つことができる	5	4	3	2	1
29	庭があれば、きれいに手入れできる	5	4	3	2	1
30	家事は面白い	5	4	3	2	1

		あ て は ま る	あ て は ま る 非 常 に	あ て は ま る ど ち ら と も い え な い	あ て は ま ら な い	あ て は ま ら な い ま っ た く
31	料理や洗濯・掃除をすることは楽しい	5	4	3	2	1
32	植物の水やりができる	5	4	3	2	1
33	食器などの後片付けができる	5	4	3	2	1
34	できることなら家事はしたくない	5	4	3	2	1
35	家計のやりくりができる	5	4	3	2	1
36	ボタン付けなどの必要な繕い物ができる	5	4	3	2	1
37	食事を作ることができる	5	4	3	2	1
38	お年寄りが好きだ	5	4	3	2	1
39	お年寄りのことはよくわからない	5	4	3	2	1
40	お年寄りとうまくコミュニケーションをとる自信がない	5	4	3	2	1
41	お年寄りと一緒に過ごすのは楽しい	5	4	3	2	1
42	お年寄りの世話をすることに負担や重荷を感じる	5	4	3	2	1
43	お年寄りとうまく接することができない	5	4	3	2	1
44	お年寄りめんどくさい存在だ	5	4	3	2	1
45	お年寄りは何を考えているかわからなくて困る	5	4	3	2	1
46	お年寄りを見ているとイライラする	5	4	3	2	1
47	お年寄りを見ていると優しい気持ちになる	5	4	3	2	1
48	病院か施設でお年寄りの世話をしてほしい	5	4	3	2	1
49	必要であれば、介護しようと思う	5	4	3	2	1
50	高齢者や介護について学びたい	5	4	3	2	1
51	介護をすると、家事・家族の世話・仕事などに支障が出る	5	4	3	2	1
52	子どもが好きだ	5	4	3	2	1
53	子どもと一緒に遊ぶのは楽しい	5	4	3	2	1
54	将来、子どもを育ててみたい	5	4	3	2	1
55	子どもを見ていると優しい気持ちになる	5	4	3	2	1
56	赤ちゃんを見ると、あやしたり笑いかけたりする	5	4	3	2	1
57	子どもはめんどくさい存在だ	5	4	3	2	1
58	子どもの成長の仕方や子育てについて学びたい	5	4	3	2	1
59	将来、自分が育児をするなんて考えたこともない	5	4	3	2	1
60	育児は楽しいと思う	5	4	3	2	1

Ⅲ あなたの属性について

	あなたの、子どもの世話に関する接触体験について 教えてください。	し た こ と が あ る か な り	ど ち ら か と い う と し た こ と が あ る	ど ち ら か と い う と し た こ と が あ ら な い	し た こ と が あ ら な い	機 会 が な か つ た ま つ た く
1	幼稚園や小学生の遊び相手	5	4	3	2	1
2	3歳ぐらいまでの幼児の遊び相手	5	4	3	2	1
3	赤ちゃんを抱く	5	4	3	2	1
4	3歳ぐらいまでの幼児を半日以上一人で世話をする	5	4	3	2	1
5	赤ちゃんを半日以上一人で世話をする	5	4	3	2	1
6	3歳ぐらいまでの幼児をお風呂に入れる	5	4	3	2	1
7	赤ちゃんをお風呂に入れる	5	4	3	2	1
8	3歳ぐらいまでの幼児のトイレの世話をする	5	4	3	2	1
9	赤ちゃんのおむつ交換	5	4	3	2	1

10	性別	①男性	②女性		
11	あなたの兄弟数	①一人っ子	②2人	③3人	④4人以上
12	弟の存在はありますか	①いない	②いる		
13	妹の存在はありますか	①いない	②いる		
14	身近に3歳までの幼い子の存在はありますか	①いない	②いる		
15	中学や高校での 保育体験実習（ふれあい体験）	①体験なし	②体験あり		
16	小児看護学について	①興味がある	②どちらとも言えない	③あまり興味がない	
17	子どもと関わることについて	①自信がある	②どちらとも言えない	③不安である	

☆☆アンケートはこれで終了です。ご協力、ありがとうございました。☆☆